



独立行政法人国立高等専門学校機構
都城工業高等専門学校
National Institute of Technology (KOSEN), Miyakonjo College

図書館だより

第96号 令和7年3月発行

目 次

「竜馬がゆく ～坂本龍馬の足跡を追って歴史探訪～」 図書館長	友安 一夫	1
「返却図書雑感」	一般科目（文科） 飯尾 高明	7
「物語と共にあること」	一般科目（文科） 松川 兼大	9
「恒等式って何ですか？」	一般科目（理科） 東根 一樹	18
深山書評 2024 受賞作品発表		20
第1席（深山賞） 5 C 小林 大地 「『ノルウェイの森』で楽しむ読書」		21
第2席（図書館長賞） 3 E 増森 涼太 「食思想」		22
第3席（優秀賞） 2 A 山崎 ふわり 「『沙を噛め、肺魚』を読んで」		23
第3席（優秀賞） 1 C 長友 佐弥 「『芥川龍之介全集』より『白』」		24
深山書評 2024 取り上げられた作品の紹介・表彰式		25

2024年度図書貸出ランキング	27
トピックス	
閉架書庫 by 学生図書委員	29
クロスワードパズル by 学生図書委員	31
押し本 by 学生図書委員	32
新着図書リスト	33
編集後記	38

竜馬がゆく

～坂本龍馬の足跡を追って歴史探訪～

図書館長 友安 一夫

最近、といってもここ 10 年ぐらいの話ですが、私が「司馬遼太郎の小説は読んだことがない」とある友達に話すと「それは老後の良い楽しみですね。『竜馬がゆく』は面白いですよ」と言うのです。その時は社交辞令で「それなら老後の楽しみにしておきますか」というやり取りをしたことを今でも覚えています。ただ、残念なことに私の老後の楽しみの一つは消えてしまいました。この寄稿を書いている時点で『竜馬がゆく』を読み終えてしまったからです。私の友人のオススメでしたが、想像を超えた面白さでした。この想像を超えた面白さをこの「図書館だより」の寄稿に落とし込むには私の力量ではなかなか難しいところですが、私なりにその思いをたどたどしくですが紡いでみたいと思います。



塩湊温泉龍馬公園
2025年2月 図書館長撮影

俳優の武田鉄矢がボーカルで 1971 年に結成された「海援隊」というフォークグループがあります。私が小学生のときのことですが、当時一世風靡したドラマ「3年B組金八先生」の主題歌「贈る言葉」をこの「海援隊」が歌っていたことで知りました。この「海援隊」のグループ名ですが、武田鉄矢はこの『竜馬がゆく』を高校生の頃に読み、坂本龍馬の熱烈なファンになり、坂本龍馬が立ち上げた私設海軍「海援隊」の名からグループ名を取ったらしいのです。それぐらい武田鉄矢の心に深く残ったということが今となっては私にも理解できるようになりました。

さて、司馬遼太郎はこの『竜馬がゆく』の執筆する際に、坂本龍馬に関する資料を“神田神保町の神田古書店街の複数店に依頼し、ワゴン車 1 台分の 1400 万円相当（1962 年以前の話と思われる）の古書・古文書を集め購入した”、という話があります¹。1960 年代の 1 万円の価値というのがどのぐらいなのか気

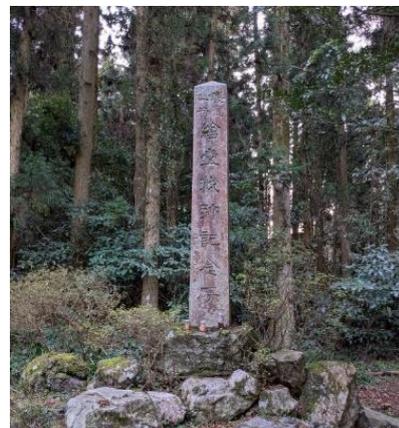
¹ Wikipedia 「竜馬がゆく」の「逸話」参照

になったので、「日本円消費者物価計算機」のサイトで現在の価値に換算してみると、約4倍のようです。このため、現在の貨幣価値に換算すれば6000万円分を買い占めたようなのです。資料だけでも6000万円前後が投入され、その膨大な資料に彼はすべて目を通し、執筆したそうです。例えてみれば、6000万円分の資料を司馬遼太郎の脳内溶解炉に落とし込み、それを『竜馬がゆく』に昇華させたということです。我々凡人であれば書籍を購入すると購入した安心感から積読で終わってしまうことも往々にしてなくはないですが、司馬遼太郎はとも違うらしいのです。どこかで読んだ司馬遼太郎の逸話の記憶をたどると、資料を読むスピードは常人では考えられないスピードで読んでいたといわれています。速読の達人というかオタクな言い方をすれば、ニュータイプ²だったのでしょいか。要するに、ある意味6000万円相当の価値がこの『竜馬がゆく』の8巻にギュッと凝縮されているのです。司馬遼太郎は膨大な資料から抽出した珠玉の龍馬伝を自身の研ぎ澄まされた歴史観を背景に一文字一文字を紡いだ作品といえるのではと思います。「神は細部に宿る」という言葉がありますが、まさに、細部にわたり、『竜馬がゆく』はリアルなのです。この小説を読んでいて面白いところは、フィクションの小説（概略はノンフィクションですが、小説なので当然フィクションです）の中に歴史解説が何故かちりばめられているという点です。資料に基づく説明であったり、彼が取材したときの現地の人とのやり取りのエピソードだったり、書かなくてもよさそうなことすらその時の情景が思い浮かぶように詳細に書き留めてあるのです。そして、その記述が、不思議と読者を引き込んでいく気がします。私も例外にもれずこの手法に引き込まれた一人です。この歴史解説コラムがちりばめられているためか、『竜馬がゆく』をノンフィクションの歴史小説と思っている人もいなくもないらしいのです。ちなみに、私も『竜馬がゆく』はある意味フィクションだと一応の理解はしていますが、一歩引いて少し遠目に眺めれば、この『竜馬がゆく』は限りなくノンフィクションに近いのではと思っている一人だったりします。実際、この本を読み終え「図書館だより」を書いている今現在であっても、ふと気になったことはGoogleで検索しています。『竜馬がゆく』を読むとそのフィクションである小説の世界でなく、実際の歴史と坂本竜馬の実像に興味が移っていくのです。それぐらい、この司馬遼太郎の『竜馬がゆく』は読者の興味を歴史に向けさせる精巧なからくり仕掛けの読み物となっています。人によってはさらに維新回天の実像に迫りたいと思ったり、彼の世界観をもっと知りたいと思ったり、まさに一編の小説が読んだ人の世界観をさらに押し広げてくれる起爆剤となり得る不思議な小説です。この点において司馬遼太郎の小説は、本当にオススメの本だと思います。実際、

² Wikipedia 「ガンダム」シリーズに出てくる架空の概念で時空を超えた非言語的コミュニケーション能力を獲得し、超人的な直感力と観察力と洞察力を持つものと定義されているが、その概念は明確でない。

この『竜馬がゆく』の紙・電子媒体での累計発行部数は約 2500 万部だそうです。これだけ多くの人に読まれた小説なのですから、おそらく日本で一番感動を与えた小説なのではないでしょうか。

さて、賛否両論あるかもしれない司馬遼太郎の脱線歴史コラムで記憶に残っているのが、「絵堂の戦い」です。正確には大田・絵堂戦役というようです。絵堂というのは、山口県の景勝地で有名な秋吉台やサファリパークがあるところの近くの地区と説明するとどのあたりかなんとなく想像してもらえないのではないかと思います。この絵堂は今となっては打ち捨てられたようなさびれた農村です。この絵堂での戦い（1865年1月6日開戦）が、維新回天の起点、大風呂敷を広げれば近代日本の礎となった戦役のなのです。その万感



絵堂戦跡記念碑のオベリスク
2024年12月 図書館長撮影

の思いをもってその地に立つと160年前の雄叫びが地の底から湧き上がってくるような気がし、感慨深いものがあります。現在では大正15年に建立された「絵堂戦跡記念碑」のオベリスクが寂しげに立ち、その傍には大田・絵堂戦役で萩政府軍先方隊が本陣としていた藤井邸の門が移設保存されており、その門の右柱に大田・絵堂戦役の緒戦の爪痕である弾痕が残り、朽ち果てる様はまさに盛者必衰の理を感じさせてくれます。

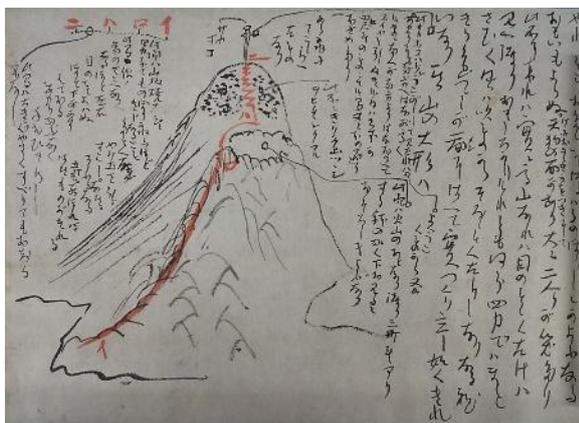


藤井邸に残された弾痕：右柱の中央少し上に弾痕の跡
2024年12月 図書館長撮影

『竜馬がゆく』は坂本龍馬の足跡をたどりながら維新回天と絡めて物語が展開していくため私の故郷である山口県の地名が何度も出てきます。特に頻出の地名が山口県防府市に実在する「三田尻港」です。歴史を深く学んだことのない私には坂本龍馬が活躍する舞台に郷里の「三田尻港」の名前が何度も出てくることは驚きでした。さらには禁門の変（＝蛤御門の変）で有名な荒武者、来島又兵衛がこの三田尻港から出陣したというくだりを読んだときはある種の感動を感じました。脱線しますが来島又兵衛なる御仁は高杉晋作が創設した奇兵隊に触発されて遊撃隊を創設した人物として知られています。その遊撃隊の駐屯地はなんと私の実家のある山口県防府市にあったということも今回初めて学びました。さらに、三田尻港から少し東に移動したところに私の実家がある「富海」と

いう地区があります。この富海にある「富海港」が 5 巻で紹介されているのです。それは、富海港から高杉晋作が大阪に出帆する船に乗って旅立つというシーンでした。私の地元が一瞬ですが、『竜馬がゆく』で紹介されていたことを目にしたとき、教科書に書いてあった明治維新の絵空事が非常に身近な出来こととして感じられた瞬間でした。

さて、この都城の周辺にも実は坂本龍馬ゆかりの地があります。霧島温泉郷から国道 223 号で国分方面に車を走らせると左手に塩浸温泉が現れます。この塩浸温泉は竜馬が京都の寺田屋で襲われて怪我をした後に療養で訪れたところです。さらに、こちらに併設された竜馬資料館には、この霧島から故郷の乙女姉に送ったとされる手紙のレプリカも展示されています。この手紙には新妻のお龍



乙女姉に送った手紙の抜粋：塩浸温泉竜馬資料館
2025 年 2 月 図書館長撮影

を伴って高千穂の峰(1574m)に登山し、山頂に突き刺さっている天逆鉾あまのさかほこを抜いてみた等のエピソードが書かれています。高千穂の峰に突き刺さっている天逆鉾は龍馬が手にした鉾なのかということが気になるところですが、残念ながら当時のものではないようです。1880 年以降の御鉢の噴火で折れてしまったそうで、現存するものは大正時代以降に修復されたレプリカのようなのです。ただ、地中に埋まっていた柄の部分は当時回収され、近くの荒武神社（都城市吉之元小学校の傍）に奉納され、その後さまざまな人手を転々とし、現在は行方不明となっているそうです³。



図1 高千穂の峰登山口



図2 高千穂河原



図3 御鉢



図4 馬背越(手前)と高千穂の峰(1574m)



図5 馬背越(=背門丘)



図6 新燃岳(手前)と韓国岳(1700m)



図7 天逆鉾

図1~7 2025 年 2 月 図書館長撮影

さて、『竜馬がゆく』の第 6 巻の「霧島山」の節に、お龍を連れて、高千穂の峰へ登山したとの記述があります。今は風化のためか人の手が入ったためなのかは定かではありませんが、馬

³ Wikipedia 「天逆鉾」の「高千穂の天逆鉾」を参照

背越はそれほどの難所という感はありません。「霧島山」の節には高千穂の峰登山を楽しんだ 2 人の仲睦まじい様子が描かれ、その記述は当然フィクションなのですが、私には妙にリアルに感じられました。ただ、上記の乙女姉への手紙の口～八の間には現代語訳すると次のような記述があるそうです。

“この間はある「馬の背越え」（噴火口の縁を登る）です。なるほど、左右目が届かぬくらい下がかすんでいます。あまりに危なかしいので、お龍の手を引いてやりました。（今でもここは大変な難所で、この通りだそうです）”

昔（1866 年 5 月 13 日）二人が歩いた馬背越を自分の足であらためて踏破してみたくなり、登ることにしました。登山した当日は登山口にはまだ雪が残り、新燃岳の噴火で積もった小さな噴石に足を取られながら、高千穂河原を越えていきました。御鉢の縁を回り、馬背越を超えて、2 人の影に思いを馳せるような体力的な余裕はなく、息を切らしながらなんとか山頂に到着しました。山を登りながら時々写真を撮ってみました。この雄大な風景を龍馬もお龍も見ていたのだと思います。また、高千穂の峰に登られたことのない皆さんにお土産の写真ということで堪能してもらえれば幸いです。

さて、皆さんは「司馬遼太郎記念館」があることをご存じでしょうか。実は私もわりと最近まで知りませんでした。『竜馬がゆく』を読み進めていると不思議と作者である司馬遼太郎にも引かれていきました。調べてみると司馬遼太郎記念館は大阪の近鉄奈良線沿線の住宅街の中にあり、彼の自宅傍に建てられています。また、彼の自宅の書斎も自宅に造園された庭の小道から見ることができます。この書斎は司馬遼太郎が亡くなった当時のまま残されており、里山の雑木林を模して造園された自宅の庭の奥に今も静かに佇んでいます。この知の巨匠の残像が残る書斎には今なお執筆のために集められた書物が積み上げられており、この書斎を通り過ぎた先に建築家の安藤忠雄が設計した司馬遼太郎記念館があります。そのモダンで洗練された建物の中に司馬遼太郎の脳内溶解炉を具現化したような巨大な書架が作られ、司馬遼太郎の約 6 万冊の蔵書のうち約 2 万冊が収められています。ここにその書架の写真が掲載できないのが残念ですが、この書架は一見の価値があります。「蔵書で囲われて、闇に包み込まれたような、かすかな光の空間のイメージ」（記念館図録より）⁴というコンセプトの下で設計されているそうです。実際、私もこの記念館を訪ねてその書架を見たのですが、彼の世界観を建築物によって見事に具現化しているといっても過言でない素晴らしい記念館でした。この記念館は司馬遼太郎ファンであってもなくても一見

⁴ 司馬遼太郎記念館 HP「記念館について」参照

の価値があると思います。

坂本龍馬は維新史の奇蹟と言われています。歴史に疎かった私は坂本龍馬の偉業を日本史の教科書でなく『竜馬がゆく』を読んでその概要をしり、坂本龍馬の周りに現れては消えていった歴史上の偉人たちを司馬遼太郎の歴史観を通して再発見することができました。維新回天の志士の中で高杉晋作が記憶に残っています。高杉晋作の辞世の句に

“おもしろきこともなき世をおもしろく 住みなすものは心なりけり”

という句があります。正確には、上の句を高杉晋作が読み、下の句を福岡の勤王女流歌人の野村望東尼が付け加えた歌として知られています。ふと、この野村望東尼が気になり調べてみると、「野村望東尼の終焉の宅」というのがなんと私の出身校である防府高等学校のすぐ傍にあるのです。改めて記憶をたどると何かあったような記憶が無きにしても非ずですが、記憶はおぼろげです。実は意外と身近に維新回天の志士を感じられる史跡が故郷の防府市にはあったというのを恥ずかしながら今まで知りませんでした。

世の中にはまだまだ知らないことが無限にありますが、答えは実は目の前にあるのかもしれない。今回もいろいろ調べてみると、あるいは少し考えれば知りたいことは目の前にあったようです。ただ、興味を持たなかったゆえに、この歳になるまで維新回天の郷土ゆかりの志士に興味を持つことがなかったということになります。こんなことを書いているとアイザック・ニュートンの言葉を思い出します。

“私は海辺で遊んでいる少年のようである。ときおり、普通のものよりもなめらかな小石やかわいい貝殻を見つけて夢中になっている。真理の大海は、すべてが未発見のまま、目の前に広がっているというのに”

今は便利な時代で調べれば大抵のことは大体分かるかもしれませんが。ただ、調べようと思わなければ、知りたいと思わなければ、気が付かずに通り過ぎて行ってしまいます。だからこそ、若い学生の皆さんはいろいろなことに興味を持ち、貪欲に知識を吸収してもらいたいと思うのです。良書を読めば、知の探求を欲するエンジンがかかるはず。皆さんがそれぞれの“良書”に出会えることを願いつつ筆をおきたいと思います。

返却図書雑感



一般科目（文科）

飯尾 高明

現在、退任のために研究室の整理を行なっています。40年この部屋で過ごしてきたので、様々な物品で溢れかえり、何から手をつけたら良いか途方に暮れていたところですが、そうのんびりもしてもらえず、図書の返却を10月からぼちぼち始めました。研究費で購入した書籍を、ほとんど返却せずに溜め込んでいたため、かなりの冊数になり（940冊程度）、うんざりしながらも現在ようやく運搬作業終了に目処がついたところです。図書の大部分は小生の研究費で購入したのですが、前任の2名のドイツ語担当教員が購入されたものもかなりあります。それらのなかで数点紹介してみたいと思います。

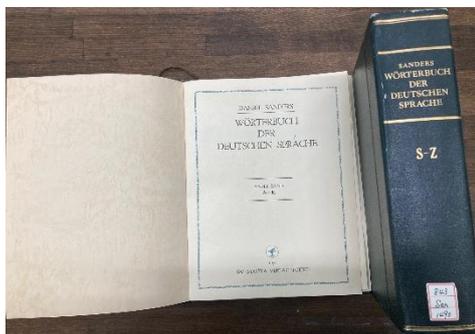
1. ドイツ語辞典（グリム兄弟編纂） dtv 出版社

童話でその名を知られているグリム兄弟が生涯をかけて編纂し、二人の没後100年ほど経った1961年に完成した大部のドイツ語辞典です。もちろんこの原著を買うことは不可能で、小生が購入したのはその文庫版（それでも33巻本）です。装丁は緑色の厚紙で原本とは似ても似つかないが、中身は原著のコピーで、フラクトゥール（亀の子文字、ドイツ文字）で印刷されています。



2. ドイツ語辞典 (D. ザンダース編) 4巻本、三修社

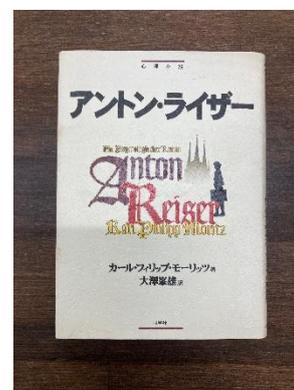
この辞典もやはり復刻版ですが、装丁も原著と同じ革装です（復刻元は語学の教科書出版社である三修社）。やはりフラクトゥールで印刷されており、読むのに少し骨が折れます。小生以外使うこと人もあるまいと研究室の書棚に運び込みましたが、やはりほとんど使うこともありませんでした。ただこの辞典の著者の名前を思いがけないところで聞いた記憶がありました。



それは鈴木清順監督の『ツィゴイネルワイゼン』という映画で、ややホラーめいた妖しげな雰囲気の中で、主人公のドイツ語教授の不安を高める小道具として使われていました。主人公に（亡くなった）親友が貸したその辞書を返すようその親友の未亡人が何度も主人公を訪れるのです。映画を見たのはまだ学生時代だったので、どんな辞典なのだろうと印象に残りました。最近、改めてこの映画を見たところ、使われていたのは同じザンダース編の独英辞典の方であることに気がつきました。こちらは1巻本で、確かに登場人物の女性が一人で抱えて運べる重さのものでした。

3. 『アントン・ライザー』(カール・フィリップ・モーリッツ著) (訳) 大澤峯雄、同学社

この小説は学生時代に学部の授業で原著のレクラム文庫版を読みました。著者の自伝的小説でかなり長編なので授業ではその本の一部を読んだだけでした。25年前に翻訳が出たのでドイツの心理小説の走りと呼ばれるこの作品をもう一度読もうとおもったのですが、結局忙しさに紛れて通読することはありませんでした。2年ほど前にその授業を担当されたI先生の訃報を耳にして、この著作のことを思い出した次第です。退職後は時間も十分あるのでもう一度レクラム文庫で読もうと思っています。



読書にまとまった時間をとることができるのはなんといっても学生時代です。皆さんも電子書籍・データだけでなく是非紙の書籍に目を向けてみてください。

※文中に掲載した写真：すべて本校図書館所蔵

物語と共にあること



一般科目（文科）

松川 兼大

この三月に退任することになりました一般科目の松川です。定年退職ではないので、最後まで立派に勤め上げた先生方のように重みのある文章は書けそうにありません。それは残念なところですが、いちおう私も文学畑の出身ですし、図書館長の友安先生にはたいへんお世話になっていることもあり、一筆とらせていただく次第です。

私が本校に着任したのは二〇一七年のことになります。学生時代は英文科に所属していましたので、先生方も含めて当然ながら周囲はみごとに文系ばかりという環境でした。それがこの八年間は高専なのでこれまた当然ながら理系的な雰囲気の中に身をおくことになりました。私にとってこれは水のなかにいた生き物が陸地に適応しなくてはならないという感じの変化で、文系・理系の考え方や感性のちがいを意識させられる場面も少なからずありました。

しかしながら、それによって自分がいかに偏った人間なのかということにも思い至りましたし、これだけたくさんの理系の学生さんたち、先生方と関わりがもてたことは本当に得がたい経験だったと思っています。その影響(?)なのか、最近は科学史に興味を持ちはじめました。私はまったくの門外漢なのですが、この科学史という分野を簡単に説明すると、自然科学がどのように成立・発展していったのかを研究する学問になります。たとえば、ある科学者の業績とその影響を調べたり、ある理論が成立した背景を考察したりするのですが、その過程で関連する時代思潮や社会構造、文化的側面や政治的背景などに言及することもあります。このように、分野横断的かつ広範な知見と包括的な視点が要求される分野ですので、一般向けに書かれた新書の類であってもなかなかすらすらとは読めなかったりします。

私は科学史にある種の理想を見出しています。子どもの頃は理科が大好きで、

よく科学者の伝記などを読んでいたのですが、高校に入ると数学にまったくついていけず、理系の進路選択は自分ではやばやと閉ざしてしまいました……。だからでしょうか、文系的なものの見方と理系的なものの見方を調和のとれた形で統合するのが自分のなかのひとつの目標になっています。社会に目を向けてみても、ますます複雑化していく現実上の諸問題に対応していくためには従来の文理の区分を越えた知が必要であるという考え方が広く共有されつつあるようです。その一環として、STEAM教育や大学における学環の設置が推進されています。

とはいえ、文理の区分を超越した包括的かつ巨視的（マクロ）な視点さえあれば十分かという、決してそんなことはなく、同時に個別的かつ微視的（ミクロ）な視点を持つことが大切だと思います。後者の視点はもちろん専門分野を深く掘りさげていくことで得られるものです。本校は実践的な技術者を養成するための学校ですので、学年があがっていくにつれて学生のみなさんの主たる関心もまた自分の専門分野に集中していくことでしょう。それはたいへん好ましいことなのですが、それと並行して一般教養（STEAMでいうところのA（Arts））を身につけ、視野を広げる努力をすることも忘れないでください。Macの美しいフォントはスティーヴ・ジョブズがカリグラフィに興味を持っていたことから生まれたというエピソードが私は好きです。

月並みな意見ではありますが、視野を広げるために不可欠なことのひとつはやはり読書であると私は考えています。本を読みましようという科白は、小学校の先生から大学の先生まで異口同音にだれもが口にするひとつの決まり文句（クリシェ）です。しかし、その「本」が指しているジャンルは人によってだいぶちがっていると思います。私はみなさんには特にフィクション、そのなかでも小説を読んでほしいです。なぜかという小説、すなわち物語は生きていくうえでいちばん不要なもののように思えて、じつはいちばん必要なものだからです。人は物語なしでは生きられません。

考えてみてほしいのですが、将来のことを考えたり過去をふり返ったりするのは、自分を一人称に据えた物語を作ることです。将来はシステムエンジニアになって大好きなゲームアプリ開発に携わりたい、でも仕事だけじゃなくて三〇代前半くらいには結婚して家族をもちたいなといったヴィジョンを描くこともあるでしょう。あるいは、中学校ではあまり勉強しなかったけれど、都城高専に来てからはそれではダメだと気づき、苦手な科目の単位を落としそうになりながらも、がんばって目標としていた大学に編入できたとふり返るようなことも。さらには、あの子といっしょになれたらどんなにいいだろうとひそかに妄想を繰りひろげることも（大丈夫です。私には好きな子のことを思いながら詩のよ

うなものを書いていた恥ずかしい過去があります（笑）。

だれだって人は自分の人生という物語の主人公でありたいと願うものです。それゆえに理想と現実のはざままで苦悩し、ひどい場合には理想への過度な執着から道を踏み外してしまうということさえあります。自分は社会から疎外されている、不当な扱いを受けている、こうなったのは何もかもあいつらのせいなんだ—そういった思い込みはやがて意識に深く根をおろす歪んだ物語へと成長し、痛ましい凶行を引き起こしうるということを私たちは知っていますね。無差別殺傷事件やテロなどは日本では欧米などとくらべれば少ないと考えられていますが、それももう過去の神話になりつつあるような気がします。

作家の村上春樹はあるインタビューで「罪を犯す人と犯さない人とを隔てる壁は我々が考えているよりも薄い」と述べ、現代社会という個人を囲い込むシステムのありようを描いた長篇『1Q84』（2009-2010）の執筆動機について語っています。もちろん、一つひとつのケースによって原因や結果はさまざまでしょうけど、一般的に人は他者とのつながりや交流をとおしてきちんと理解される、きちんと受けとめられるということがなければ、すぐに悪に傾いてしまう厄介な性質があるのはまちがいないと思います。自分の物語を誰かにわかってもらいたいという欲求、ともいえるでしょうか。しかし、「理解してほしい」「わかってもらいたい」などと一方的に要求することが許されるのは、自分で身の回りの世話ができない赤ちゃんだけです。大切なことは、人は自分の物語を紡いでいくとともに、他の人の物語にも共感し、理解するよう努力せねばならないという認識を持つことでしょう。私は人間が人間でいられるための条件のひとつは、この相互理解の姿勢にあると考えています。

物語を読むことは、人間の感情を理解し、よりよく生きていくための手助けにもなるでしょう。作家と一口にいってもさまざまですが、基本的には洞察力に富み、感受性が豊かな人が言葉を一つひとつ丁寧に選びながら物語をつくっていくわけですので、すぐれた作品はさながら現実以上に真実味を帯びているということがあります。シェイクスピア、バルザック、ゲーテ、ドストエフスキーなど、歴史にその名をとどめるような文学者たちはいわば人間の感情や心理の専門家でもあるように思えます。西洋の古典（クラシック）は自分の専門分野がなんであるかにかかわらず読んでおいて損はないです。まあ、どんどん忙しさが増していく現代社会にあっては、自分の意志で古典を手にとりじっくり読むという人はすくないでしょうし、YouTubeやTikTokなどの解説動画で済ませたいという気持ちもわからなくはないのですが……。

ふだんあまり本を読まないけれど、一念発起していきなり長大な古典に挑むというのはやめたほうがいいでしょう。それはなんのトレーニングも積まない

ままエヴェレストに登るような暴挙です。いまの時代はインターネットを駆使すればどんな質問にもだれかが答えてくれますが、私のアドバイスは、自分の読むものだけは他人の嗜好にゆだねるなです。まずは自分の直感を信じて、これは面白そうだと感じた本を手にとり、時間をかけて読むことをくり返していったほうが良いと思います。古典はそうやってある程度の経験を積み、自分自身の価値基準という装備をととのえたうえで登るべき高い山です。ときには登頂失敗、つまり大作に挑んで挫折する経験もするかもしれませんね。ただそれも無意味ではなく、さらに読書経験や人生経験を経て挑んでみるとうまくいくということもあります（逆もまたしかりで、経験を積んだからこそもう読めないということも）。

一方で、古典を無批判に持ち上げすぎるのは権威によりかかることなので問題があると思います。古典は洋の東西を問わず、数えきれないくらいの人たちが口をそろえて美味しいといっている食べ物のようなものでもあります。だからといって自分の口にあうとは限らないわけです。トルストイが英文学における最大の権威といっても過言ではないシェイクスピアを徹底的に読み込んだうえで、長大な論文を書いて批判しているのは有名な話ですが、ここまでしなくても、やはりどうやってもわからないものはわからないと認めてしまったほうが精神衛生上はよかったです。権威を帯びたテキストというのはむしろ、自分自身が素直な気持ちで作品を楽しむのを邪魔する、つまり悪い意味での規範にもなりうるものです。

ここで私にとって大切な意味をもつ作家を一人挙げさせてもらおうと、それはバーナード・マラマッドというアメリカのユダヤ人作家になります。大学四年生になる前の春休みに、そろそろ卒業論文のテーマを決めなきゃなと思って他の本といっしょに彼の代表作『店員』(*The Assistant*, 1957)を図書館で借りてみました。そして、たいして期待もせず読みはじめたその本に、まさに心の奥深くまで沁み入るかのような静かな感動を与えられることになったんですね。

フランクという流れ者の若者が、食料雑貨店を営むユダヤ系の老人モリスのもとで人生における大切な価値観を学んでいく作品ですが、有名なのは、あなたはいつも何のために耐え忍んでいるのかとフランクがモリスにたずねる場面です。モリスは「わしは君のために耐え忍んでいるのさ」と答えます。フランクは内心ぎくりとします。なぜかという、彼は覆面をしてモリスの店に強盗に入ったのですが、その後、良心の呵責から、また自分の人生を立て直したいという気



持ちから、店で働かせてほしいと申し出てきているからです。それはどういうことかと訊くと、つづけてモリスは「言いかえると、君がわしのために苦しみに耐えているということだ」と返します。謎かけのようですね。

「ために」という言葉は「あなたの利益になるように」という意味にも「あなたが存在しているせいで」という意味にも解釈できます。この「苦しみによって結びつけられる人間」という考え方は、他者の存在がなければ生きていけないせに、その他者との適切な距離感がわからずに悩んでばかりいた私には、ひとつの啓示のようにさえ思えました。こう書いていくといかにも鹿爪らしい小説のようですが、モリスの娘ヘレンとフランクの恋愛も物語の主要な要素ですし、笑える場面もたくさんあって、地味ではあるけれど文学的な誠実さに満ちたこの作品は、ユダヤ系アメリカ文学のひとつの到達点を示すものです。

アメリカ文学といわれて世間一般の人々がイメージするのは、ヘミングウェイ、フィッツジェラルド、カポーティ、サリンジャーといった作家たちではないでしょうか。かれらはいずれもアメリカ文学における正典（キャンオン）の作り手たちであって、当然私も読んではいませんが、けっきょくのところ本当の意味で夢中になって読んだ作家はマラマッドだけかもしれません。マラマッド (Malamud) という姓は「教師」を意味するヘブライ語、melamedからきていますが、文字どおり彼は私にとっての精神的な師なのです。

マラマッドとちがってユダヤ性はそれほど強くないですが、ポール・オースターも私にとって大切な作家です。彼は本国アメリカよりもむしろヨーロッパや日本で人気がありますが、日本での人気を支えているのは翻訳者である柴田元幸の訳文の力が大きいと思います。みなさんは、海外の文芸作品を読むときに「だれが」翻訳しているのかを気に



したことはあるでしょうか。私が初めてそのことを意識したのはオースターの『偶然の音楽』(The Music of Chance, 1990)を読んだことがきっかけでしたが、柴田さんの翻訳はピアニストにたとえるとポリリー二のように正確で、もとの英文の骨格が透けてみえるような基本に忠実なものです。こんなにも読みやすい翻訳があるのか！と心底感動したのをおぼえています。

私は翻訳というものはクラシック音楽の演奏に近いと思っています。ひとつの楽譜をどのように解釈し演奏するかは音楽家の個性や力量によってさまざまです。それと同じように、名作といわれている作品ほど翻訳はいろいろな種類があったりしますが、できれば翻訳者について調べたり、じっさいにすこし目を通したりしてじっくりくるものを選ぶといいでしょう。私にはこの人の訳だったら安心して読めるというお気に入りの翻訳者が何人かいます。翻訳者は目立つ

ポジションではないという意味ではベーシストに近いかもしれませんが、じっさいはアーティストといっしょに作品の方向性を決定づけるプロデューサー並みの重要な仕事をしています。作品が生きるか死ぬかはまさに翻訳者の腕しだいなのです。

いろいろなものを読んでみると、ときには文章そのものと内容とが不可分な関係を取り結んでいる作品に出会うことがあります。フランスのユダヤ系作家、パトリック・モディアノの作品群がまさにそのようなものです。彼の作品は基本的にパリを舞台としていて、通りの名前



や番地、人物名などは過剰なほどこと細かに書き込まれているにもかかわらず、登場人物たちの関係性や物語そのものについてはまるで霧につつまれたかのようにぼんやりとしています。代表作は記憶喪失の男が自分自身を求めてパリの街をさまよう『暗いブティック通り』(*Rue des boutiques obscures*, 1978)、孤独な少女が虚構におおい隠された母親の人生を探しにいく『さびしい宝石』(*La petite bijou*, 2001) などですが、読みはじめたらいつまでもそこに浸っていたくなる不思議な魅力を指して「モディアノ中毒」という言葉も存在しているほどです。

モディアノは毎年のように作品を発表している多作家ですが、ほとんどの作品は短めの長篇といったおもむきで、そこには彼自身の記憶や体験が刻印され、「喪失」や「探求」といったテーマが何度も反復されていきます。私たちはよく、ある作家の代表作だけを読んでわかった気になってしまうものですが、本当はどんな作家も一冊や二冊読んだ程度では判断することができないんです。モディアノは冊数を重ねてようやくすこしずつ理解が進んでいく作家の代表例だと思います。私にとってモディアノ作品を読むことは、恥ずかしがり屋でなかなか心を開いてくれないけれど、それでも話しかけたくなる独特の魅力をもった人との付き合いという感じです。

「記憶の芸術」と称される彼の作品を読んでいて感じるある種の静寂や喪失感、たとえば川端康成の作品にただよっているそれともよく似ています。川端もまたみずからの孤独な生い立ちと作品の成り立ちとが密接な関係にある作家ですし、プロットをきっちり立てて書いていくというよりは、自身が美しいと感じたものについて思うがままに書き進めていくタイプでした。論理性よりも感性が際立っているんですね。水の流れのように澄んでいて、でも底を覗いてみる

となにか恐ろしい生き物の気配が感じられる、そういう散文の書き手だと思います。物語の組み立て方という意味ではモディアノのほうがより技巧的ですが、生まれた国も生きた時代も異なるこの二人の作家に、何かしらの共通項をさぐるのはそれほどむずかしいことではありません。

『密やかな結晶』(1994) や『博士の愛した数式』(2003) など多数の作品で知られ、やはり「記憶」というモチーフに特別な関心を寄せる作家に小川洋子があります。私は小川さんの作品も好きで新刊が出るたびに書店に買いにいくのですが、彼女はモディアノと川端の双方からの影響を語っている



ということも指摘しておきましょう。川端については佐伯一麦との対談集『川端康成の話をしようじゃないか』(2023) という本を出されているくらいです。小川さんは日本文学のお家芸である私小説ではなく、かといって物語展開の面白さで読ませるのでもなく、細部まで入念に書き込まれた描写に持ち味がある作家です。資質として全体よりも部分に目がいきがちなところは、いかにも川端の視点とよく似ていると感じられます。

本を読むという行為は単純にリテラシー、すなわち識字能力や読解能力の観点から語られることが多いと思います。しかし、とくに物語についてはそれ以外の要素、つまり自分がどんなことに興味や問題意識を抱いているのかということが作品の受容の仕方と大きく関わってくるといえるでしょう。小川さんは多感な時期に読んだ『アンネ・フランクの日記』(Het Achterhuis, 1947) が自分の文学的原点であるといろいろなところで述べておられます。といっても、一五歳でホロコーストの犠牲となった少女の日記が読後に何十作もの本を書かせるほどの影響を万人に及ぼすわけではなく、それはあくまで小川さんという個人の内側にあるものと共鳴する何かがあったからですね。この「何か」は自らすすんで求めなければなかなか出会えないものです。そしてその「何か」に出会えてはじめて自分の知らなかった側面が見えてくるようなこともあるかもしれません。

さて、ここまで何人かの作家を引き合いに出しながら思いつくままにフライトを進めてきましたが、そろそろ着陸態勢に入らなくてはならないようです。近年はDX化の一環として学校でもペーパーレス化が推進されていて、以前はみなさんに紙媒体で配布していた学校からの書類も多くはPDFをTeamsで配信すると

ったなあ、でも楽しかったと思ってもらえたらうれしいですね（高専において「変である」というのは最大級のほめ言葉です）。だれにとってもまず大事なのは自分の人生であるけれど、その一方で周囲に目を向けると、自分の意志とは関係なくたくさんの人生であふれかえっているということを肌身の感覚として学んでいく場が学校なのだと思います。

「人間」が排除されているように思うと述べましたが、それはなにも人工知能の発展だけが要因ではありません。身近なところに目を向けてみると、もはやそれなしでは生活できないのではないかと思えるほど、私たちはスマートフォンやSNSがもたらす利便性に心をうばわれています。とりわけSNSは私たちの関係性やコミュニケーションの仕方に大きな影響を及ぼして、たとえば直接面と向かっていけば済むことも簡単にチャットで済ませたりするようになっていきますね。たしかに便利なのですが、それによって人との接触の機会が減り、血のかよったコミュニケーションが苦手な人が増えつつあるのもまた事実です（これはインターネットが普及しはじめた頃にも言われていたことだと思います）。私たちは急速に何かを手にしつつある一方で、急速に何かを手放しつつありますが、そのことが客観的に評価されるにはまだまだ長い時間がかかりそうな気がしています。

いまはテクノロジーがもたらす利便性にばかり目がいきがちな時代ですが、テクノロジーはあくまでもよりよい未来をつくるための手段に過ぎません。よりよい未来をつくるという目的達成の主体は、どこまでいっても私たち人間なのだということを忘れないようにしましょう。人の数だけ物語があって、その一つひとつが輝けるような未来を築けるかどうかは、私たち大人だけでなく、これから大人社会の仲間入りを果たすみなさんの学ぶ意志にかかっています。みなさんは将来的に技術者をはじめとするいろいろな道に進んでいくと思いますが、どうかゆく先々で、人や物語に対するすぐれた共感の姿勢と、そこから何かを学び取ろうとする意欲とをそなえた大人になってほしいと願っています。

※文中に掲載した写真：松川先生からのご提供（本はすべて松川先生私物）

恒等式って何ですか？



一般科目（理科）

東根 一樹

私が基礎数学Ⅰの授業で学生さんから受けた質問をタイトルにしてみました。ずいぶん前に質問されたと思うのですが、うまく答えることができず心残りなので回答したいと思います。

本校で用いている基礎数学Ⅰの教科書（新基礎数学改訂版・大日本図書）の46ページによると、「等式 $x^2 - 4 = (x + 2)(x - 2)$ や $(x + y)^2 = x^2 + 2xy + y^2$ のように含まれている文字にどんな値を代入しても、常に成り立つ等式を恒等式という」とのことです。さらに「2つの2次式 $ax^2 + bx + c, a'x^2 + b'x + c'$ に対して、これら2つの式が恒等式である（すなわち、 x にどんな値 t を代入しても $at^2 + bt + c = a't^2 + b't + c'$ となる）ための条件は $a = a', b = b', c = c'$ であり、そのときに限る」とのことです（同教科書47ページ）。つまり、2つの式が恒等式であるためには（降べきの順に整理した）式の形が完全に一致しなければならない、ということになります。「わざわざ条件として述べなくても、そんなこと当たり前ではないのか？」、学生さんからのそんなような質問だったように思います。実は、代入する値として実数や複素数（もっと一般に無限個の要素をもつような数の体系）を考えると、「2つの式の形が完全に一致している」…①ということと、「2つの式の文字にどんな値を代入しても、代入した結果出てくる値が同じである」…②ということに違いはありません。上記教科書でも代入する値は実数を想定していると思います。ですから、質問していただいた学生さんの感覚は正しい（①と②に違いはない）です。

しかしながら、実は①と②に違いがあるような「数の体系」というものが数学にはあります。一番簡単な例としては2元体 $\mathbb{F}_2 = \{0, 1\}$ があります。 \mathbb{F}_2 での計算は $1 + 1 = 0$ となることを除いて通常の0,1同様です（コンピュータの中の計算）。実は、上の「代入する値」として \mathbb{F}_2 の要素をとると、①、②に違い

が出てきます。例えば、2つの式

$$f(x) = x^2 + x + 1, g(x) = x^3 + x + 1$$

を考えましょう。 $f(x)$ と $g(x)$ は見た目は明らかに異なる式です。しかしながら、

$$f(0) = 0^2 + 0 + 1 = 1 = 0^3 + 0 + 1 = g(0)$$

$$f(1) = 1^2 + 1 + 1 = 0 + 1 = 1 = 0 + 1 = 1^3 + 1 + 1 = g(1)$$

となり、 \mathbb{F}_2 のどんな値（2個しかないわけですが）を代入しても、出力される結果が同じで $f(x)$ と $g(x)$ は恒等式になっています。

上記のように、数学の世界はとても広く、興味深い（と思えたかはわかりませんが）現象がたくさんあります。これは数学に限りません。上記のような「当たり前に見えること」に「なぜ？」と問い続ける姿勢を大切にしてほしいと思います。「なぜ？」と疑問に思うこと、それを深掘りしていくことこそが、学ぶことではないでしょうか。私も数学に限らず、どんな分野においても、問い続ける姿勢を忘れずに、成長を続けていきたいと思っています。



せかいのとしよかん



「RETRIP」より by hakkai

金沢海みらい図書館（日本・石川県）



「RETRIP」より by ka_zoo111

武雄市図書館（日本・佐賀県）

深山書評 2024 受賞作品発表



今回は低学年生から高学年生まで11点のご応募をいただきました。学生図書委員3・4年生が審査員となり、厳正な審査を行いました。審査の結果、入賞されましたのは以下の皆さんです。おめでとうございます。1月28日に行われました表彰式の様子もあわせてご覧ください。ご応募いただいた学生のみなさん、ありがとうございました。ご支援くださいました国語科の先生方、ありがとうございました。

- | | |
|---------------|-----------------|
| [第1席] (深山賞) | |
| 5C 小林 大地 | 『ノルウェイの森』で楽しむ読書 |
| [第2席] (図書館長賞) | |
| 3E 増森 涼太 | 「食思想」 |
| [第3席] (優秀賞) | |
| 2A 山崎 ふわり | 『沙を噛め、肺魚』を読んで |
| [第3席] (優秀賞) | |
| 1C 長友 佐弥 | 『芥川龍之介全集』より『白』 |

深山賞

『ノルウェイの森』で楽しむ読書

(村上春樹『ノルウェイの森』)

物質工学科5年 小林 大地

『かいけつゾロリ』で何が起こるのかワクワクしながらページを捲る。『ミッケ!』でベルを5つ見つけて大喜びする。『いーとんの大冒険』でオバーニーさんのポーズを見て笑い転げる。小学生の時、この本から何かを学ぼうという考えは頭の片隅にもなく、一つのページを楽しみつくしたら次のページを捲っていた。私の中にあっただものは「楽しい」という感情一つだった。

『ノルウェイの森』は100パーセントの恋愛小説である。知らない人からすれば堅苦しそうな作者と題名でこの本にはとっつきにくい。そう考えている人に私こう言いたい、「失礼だな、純愛だよ」。主人公ワタナベと高校生の時自殺した親友キズキとその彼女の直子。大学で知り合った坊主頭の女性の緑。学生寮の先輩で東大生の永沢さんとその恋人ハツミさん。直子が入った精神病患者療養施設の同室のレイコさん。彼、彼女らの生み出す関係ほど透き通って綺麗な純愛はないだろう。

『ノルウェイの森』を読んで私が学んだことは、とくにはない。というより学ぼうとしなかった。高校で授業をサボり、二人で球を撞きに行くワタナベとその日の夜に自殺したキズキ。ワタナベの大学時代、運河の写真で興奮する突撃隊と呼ばれる学生寮で同室となった人物。彼の話を読めば世界中の人が幸せになれるそうだ。ハツミさんという恋人がいるにも関わらず、100人近くの女性と寝た永沢さん。こんな魅力的な人たちによる物語である。学ぶ前に楽しまないで損だ。この本を読んでいると小学生のころのような本を読んでいる「楽しい」という感情が浮かんでくる。

もちろん何かを得ようとしてこの本を読むと他に得られないものを学び取れる。しかし、一度初心に帰り、ただ物語を楽しむというのかもしれない。そしてこの本を読むとワクワクしながらページを捲り、お気に入りのシーンを見つけては大喜びし、突撃隊の話聞いて笑い転げること間違いなしだろう。

図書館長賞

「食思想」

(高瀬隼子『おいしいごはんが食べられますように』)

電気情報工学科3学年 増森 涼太

食事を済ませるまでには思った以上に手間と時間がかかる。材料を買い、適度なサイズに切って加熱し、盛り付け、食べた後には道具や食器を洗う。しかし、現代ではカップ麺や冷凍食品など、手軽に食事を済ませる方法がある。それでも、なぜわざわざ時間をかけて食事を作るのか。

また、最近流行りのレストランに車で一時間以上かけて訪れ、長蛇の列に並ぶ。そして、ようやく食べ終わったと思えば、また一時間以上かけて帰る。なぜそこまでして食事を楽しもうとするのだろうか。

さらに、友人と食事にいけば、「わぁ、おいしそう」「うまつ、こんなにおいしいのは初めて」という会話が続く。確かにおいしいが、わざわざ言葉にする必要があるのだろうか。そんな社交儀礼的な会話にうんざりすることもある。

こんな疑問を抱いたことがあるなら、ぜひこの本を読んでほしい。この物語の主人公、二谷さんは食事を「腹を膨らませるためだけの行為」としか見ていない。一粒の錠剤で十分な栄養が取れたらいいのに、酒やたばこみたいな好きな人だけが楽しめるものになればいいのに、と心の底から思っている。しかし、そんな二谷さんにはケーキを作って職場の人に配るほど料理が好きな芦川さんという彼女がいる。

『芦川さんみたいな人たちは、手軽に簡単、時短レシピ、という言葉と並べながら、でも、食に向き合う時間は強要してくる』

という言葉に象徴されるように、芦川さんは食に対して二谷さんとは全く異なった視点を持つ。そんな芦川さんを中心に、二谷さんが食べることについて翻弄される様子がこの小説には描かれている。

この小説は第167回芥川賞を受賞した。この小説を読み終えると、どんな言葉を紡いでも足りないような読後感を味わえる。僕が人生で最も面白いと思った小説、「おいしいごはんが食べられますように」をあなたにも読んでみて欲しい。

優 秀 賞

「『沙を噛め、肺魚』を読んで」

(鯨井あめ『沙を噛め、肺魚』)

建築学科2学年 山崎 ふわり

この物語は『肺魚』が眠り、再び起きるまでの物語である。

沙が世界を破壊し、沙嵐が吹き荒れる世界。この世界では、芸術は機械によって管理され、生み出され、無償で供給されている。つまり、芸術の価値を少なく、芸術家になるのは厳しい道である。そんな中で、主人公が音楽家を目指す物語である。しかし、現代においても芸術を生業とするには厳しく、周りの多くの人に心配や反対をされるだろう。芸術においても既にAIが進出しており、今後はAIが生み出す芸術が主流となるのかもしれない。この本は、砂に覆われているというディストピア世界のSF小説であるが、タイトルに砂を噛むとあるように、夢へ突き進む中での苦しさや努力を表現した青春小説でもある。世界観がうまく作りこまれていることによって、この2つの要素の身近に感じられることと圧倒的な異世界感のバランスがすごく面白かった。引き込まれる不思議な感覚の本だった。

物語の中で主人公は日記を見つける。その中にはこんなことが書いてあった。「音楽は魚に似ている。人の身体は、水を湛える器だ。人はその身体に、魚を泳がせる。魚は人のなかを渡り歩いて生きる。水がなければ、魚は死に絶える。」つまり、音楽は人いることで成り立つものであり、人がいなくなれば音楽は無くなるということだと私は解釈した。これに対して主人公が出した答えが肺魚を泳がせることだった。みなさんは肺魚という魚を知っているだろうか？名前の通り肺を持った魚である。熱帯地方に生息し、乾季になり水が干上がると繭に閉じこもり、土のなかで眠りにつく。そして雨季になると、再び泳ぎだす。つまり、水がなくても生きられる魚である。主人公はなぜ肺魚という魚を選び生み出したのか、そして再び水の中を泳ぎだす肺魚をぜひ読んでみてもらいたい。

優 秀 賞

『芥川龍之介全集』より『白』

(芥川龍之介『芥川龍之介全集 第十巻』)

物質工学科1年 長友 佐弥

この本は、芥川龍之介の著作をまとめたものの第10巻目である。面白い作品がたくさんあるが、今回はその中でもわたしの気に入っている、「白」という作品を紹介する。

この物語の主人公は、「白」という名前の犬だ。白は、とある一家に飼われている犬で平穏な日々を送っていたが、ある日、「犬殺し」に遭遇し、殺されそうになってしまう。命からがら逃げ出し、飼い主の元へ帰るも、いつの間にか白かった体は真っ黒に変化しており、「飼い犬の白」と認識されず追い出されてしまう。その後、帰る場所を失った白は東京中をうろつき、行く先々で出会った人々や犬を助けていく。

この話の特徴は、作中に新聞記事の描写が出てくるところだ。実は、白が人助け(犬助け)をした場面は、一度しか書かれていないのだが、白が行った善行の具体的な内容は、新聞記事の描写によって知ることができる。初めて読んだときは、いままでに見たことのないやり方だったので、とても驚いた。このように、斬新な表現を楽しめるところも、この話の魅力のひとつだ。

また、白の心境の変化や、考えもこの話の魅力だ。犬殺しに遭遇したとき、ほかの犬を見殺しにしてしまった自分を臆病だと責めた白は、同じ過ちを繰り返さないために、勇敢になっていく。そんな白が、最後にはどうなるのか、飼い主のもとへは帰ることができるのか、結末はぜひその目で確かめてほしい。

この本は、短編集ということもあり、「白」は短い話で、テンポも良いため、あいた時間でサクッと読めるようになっている。少し昔の時代の本なので、なじみのない人は文体に慣れていないかもしれないが、長い文章が苦手な人や、集中力が続かない人も、ぜひ読んでみてほしい。

深山書評2024 取り上げられた作品の紹介

- 堂場瞬一 『チーム』*
- 芥川龍之介 『芥川龍之介全集』より『白』*
- 米澤穂信 『遠まわりする雛』*
- 馳星周 『少年と犬』*
- 村上春樹 『ノルウェイの森』*
- 原田マハ 『総理の夫 First gentleman』*
- 高瀬隼子 『おいしいごはんが食べられますように』*
- 八目迷 『夏へのトンネル、さよならの出口』*
- ル＝グウィン 『影との戦い ゲド戦記Ⅰ』*
- 鯨井あめ 『沙を噛め、肺魚』*
- 武田俊太郎 『量子コンピュータが本当にわかる！
— 第一線開発者がやさしく明かすしくみと可能性』*

※順不同にて掲載しています。
*：本校図書館に蔵書があります。

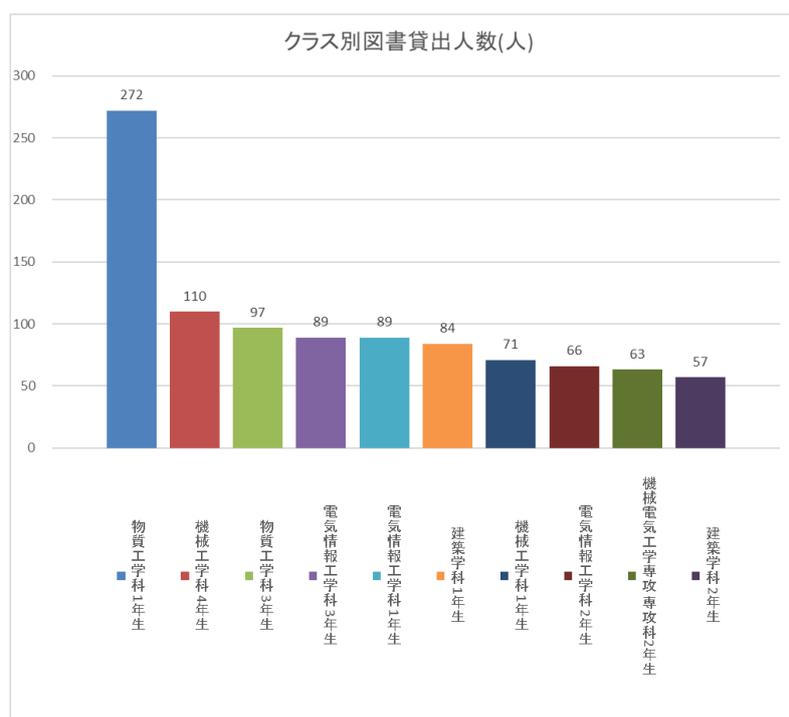
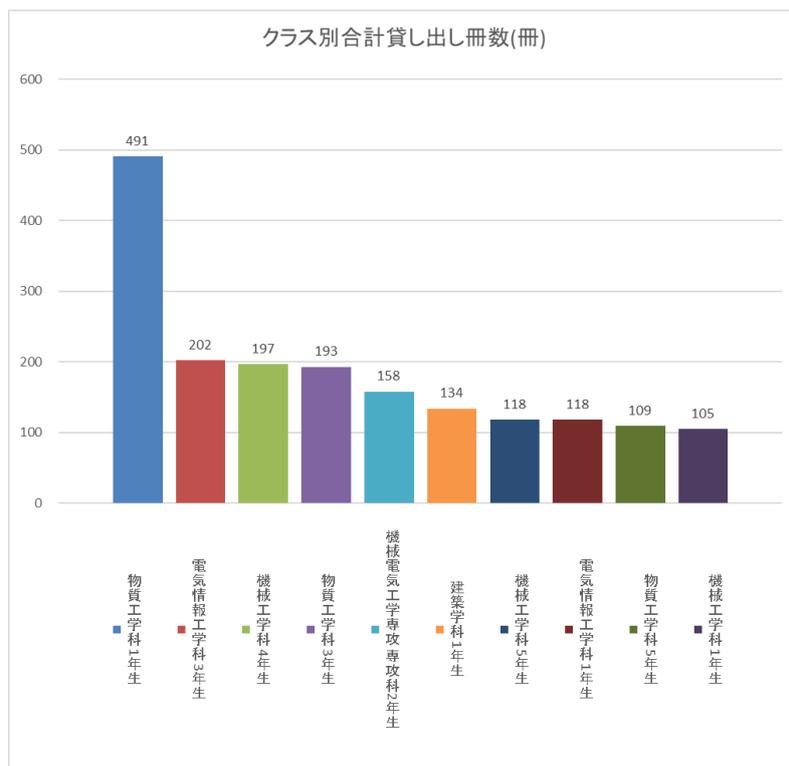
表彰式

表彰式は1月28日（火）昼休みに開架書庫にて行われました。
 図書館長 友安先生より受賞者の皆さんへ賞状と副賞の図書カードが授与され、
 図書委員長 尾瀉蓮太郎さんからお祝いのメッセージが伝えられました。
 なお、副賞の図書カードは、本校後援会よりお贈りいただきました。ありがとうございました。



2024年度 図書貸出に関するランキング

今回はクラスに着目したランキング「クラス別合計貸出冊数」「クラス別図書貸出人数」と、図書タイトルに着目した「貸出図書ランキング」をまとめました。



貸出図書ランキング

全体の 順位	貸出 回数	タイトル	著 者
1	90	分析化学 改訂増補版	阿藤質
2	34	三省堂新化学小事典	三省堂編修所[編]
3	22	基本有機化学反応：理論と実験	岡田功
4	20	はだしのゲン 1 - 7	中沢啓治
5	17	新 TOEIC TEST 出る単特急金のフレーズ	TEX 加藤
6	16	定性分析：常量法	鈴木進
7	15	基本定性分析 改訂版	阿藤質
8	14	定性分析化学 上巻:原理編	高木誠司
8	14	星を編む	凧良ゆう
10	13	成瀬は天下を取りにい	宮島未奈
10	13	公式 TOEIC listening & reading 問題集 10	ETS
12	12	公式 TOEIC listening & reading 問題集 10	ETS
13	11	無機定性分析実験	京都大学総合人間学部自然環境 学科物質環境論講座[編]
13	11	三省堂化学小事典 第4版	三省堂編修所[編]
13	11	読解力を強くする算数練習帳：考える力を磨く文章題の傑作選	佐藤恒雄
13	11	キノの旅：the beautiful world	時雨沢恵一
13	11	甲種危険物取扱者試験テキスト&問題集：一発合格!	赤染元浩[監修]
18	10	公式 TOEIC listening & reading 問題集 1-6	Educational Testing Service
18	10	TOEIC L&R テスト文法問題でる 1000 問	TEX 加藤
18	10	変な絵	雨穴
18	10	あの夏が飽和する。	カンザキイオリ
18	10	TOEIC テスト究極のゼミ	西嶋愉一

* ランキングはすべて 2024 年 4 月 1 日から 2024 年 12 月 25 日までの間を調査しました。

* 「貸出図書ランキング」は複数所蔵している同タイトルの貸出冊数を合計して算出しました。

〈TOPICS I〉

閉架書庫 by 学生図書委員

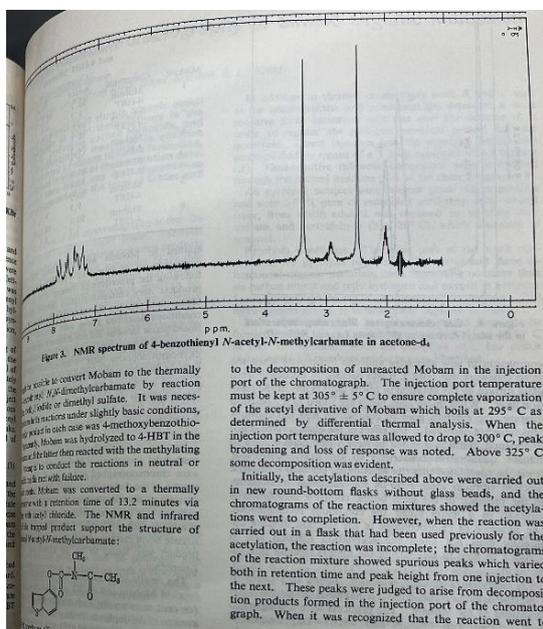
図書館だよりの夏号でもご紹介しました通り、都城高専には開架書庫とは別に、普段は解放されていない閉架書庫があります。閉架書庫には、開架書庫の蔵書が増えるにあたり、借りられる回数が少なくなった本などが収蔵されています。その図書の種類は多岐にわたっており、和書、洋書、専門書にとどまりません。今回は、過去の新聞と化学に関する専門書について少しだけ紹介します。

右の写真に示しているのは過去の宮日新聞の記事です。今ではあまり見かけない非常に巨大な新聞広告ですね！

新聞の日付は1992年で、2025年現在、およそ30年前にあたります。閉架書庫には、宮日新聞ほか数社の1991年から約10年間の新聞が保管されており、閲覧することができます。



1992年宮崎日日新聞の広告欄



『Analytical Chemistry』

分析化学)とあるように、化学での分析についてたくさん書かれていました。英語に自信のある方は読んでみてください！

今度は所蔵されている専門書を見てください。この閉架書庫の紹介の担当は物質工学科に所属しているため、化学に関する専門書を探してみたいと思います。

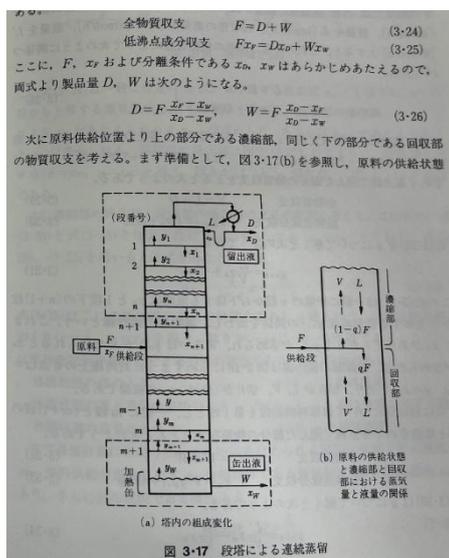
新聞コーナーの近くに本棚いっぱい並べてあった非常に分厚い化学書を開いてみると、そこには英語の文章と数式がビッシリ書かれていました。

左の写真に写っているのは、その英語の化学書です。どうやらNMRと呼ばれる化学物質の分析装置について書かれているようです。

タイトルがAnalytical Chemistry(分

閉架書庫の図書の中には、帯出可能(借りて図書館外に持ち出すことが可能)な図書も数多く存在します。先ほどお見せした『Analytical Chemistry』もその帯出可能図書の一つです。今回は閉架書庫の図書について取材するにあたり、私も一冊借りることにしました。

借りた本はずばり、『化学工学』です。今回はただ紹介するのもつまらないので、私が3年生のときに授業でも使用された『入門 化学工学』と見比べてみたいと思います。物質工学科の化学工学の授業で習う、蒸留の装置について見比べてみましょう。



『入門 化学工学』



『化学工学』

左は『入門 化学工学』の蒸留装置です。化学工学の簡略化された模式的な図に加え、写真には少ししか写っていませんが、計算式についても導出や使用文字の意味がしっかり書かれており、初学者にもわかりやすい内容となっています。

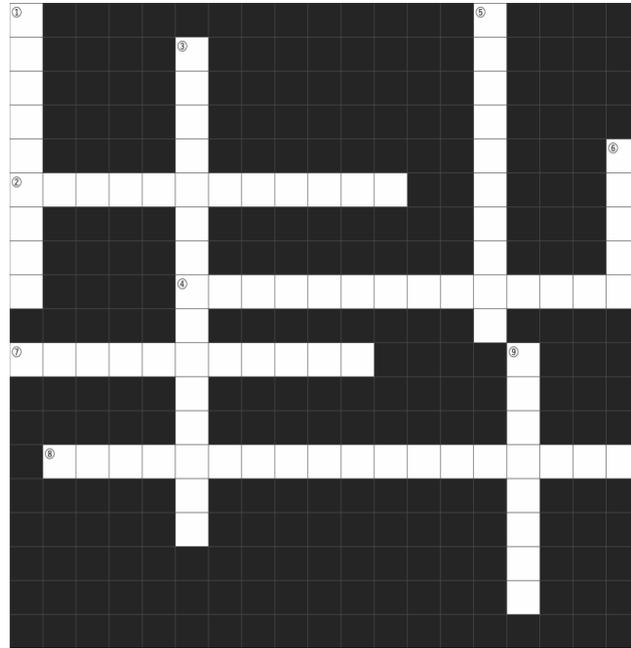
右は『化学工学』です。まず図についてみると、実際に使われている蒸留装置により近い形の図が載せられており、実際の蒸留装置の構造やプロセスについてリアルなイメージができるものとなっています。書かれている内容に関しても、最低限必要な内容と細かな補足にとどまっています。

そして、皆さんお気づきであろうこの二つの本の特筆すべき違いは、使っている文字にある。『化学工学』は旧字体と呼ばれる、1870年代までに多く使われていた漢字の本来の形や、常用漢字表にない漢字が非常に多く用いられています。

このように閉架書庫に所蔵されている図書は、一般的な図書だけでなく、英語の専門書や、旧字体が使われている今では入手できない図書などもたくさんあります。興味がある方は、ぜひ閉架書庫に訪れて、借りてみてください！

〈TOPICS II〉

クロスワードパズル by 学生図書委員



ヒント

- ①**変身** カフカ
ある朝、グレゴール・ザムザが気がかりな夢から目ざめたとき、自分がベッドの上で一匹の【 】になってしまっているのに気づいた。
- ②**蜘蛛の糸** 芥川龍之介
この糸に縋りついて、【 】、きっと地獄からぬけ出せるのに相違ございません。
- ③**人間失格** 太宰治
恥の多い生涯を送って来ました。自分には、【 】というもの、見当つかないのです。
- ④**ジキルとハイド** スティーヴンソン
ハイドは処刑台上で死ぬのだろうか？それとも最後の瞬間になって逃れるだけの勇気があるだろうか？それは【 】。
- ⑤**怪人二十面相** 江戸川乱歩
余はこのたび、右【 】を、貴下より無償にてゆずりうける決心をした。近日中にちょうどに参上するつもりである。正確な日時はおってご通知する。ずいぶんご用心なさるがよからう。
- ⑥**ドグラ・マグラ** 夢野久作
胎児よ 胎児よ 【 】 母親の心がわかって おそろしいのか
- ⑦**吾輩は猫である** 夏目漱石
吾輩は猫である。名前はまだ無い。どこで生れたか【 】。
- ⑧**銀河鉄道之夜** 宮沢賢治
カムパネルラ、また僕たち二人きりになったねえ、【 】。僕はもう、あのさそりのように、ほんとうにみんなの幸のためならば僕のからだなんか百べん灼いてもかまわない
- ⑨**注文の多い料理店** 宮沢賢治
いや、わざわざご苦勞です。大へん結構にできました。さあさあ【 】ください。

→答えは次のページ

新着図書の紹介

書名	著者
センスの哲学	千葉雅也
とにかく仕組み化一人の上に立ち続けるための思考法	安藤広大
なぜ働いていると本が読めなくなるのか	三宅香帆
Re Series 世界でいちばんやさしい教養の教科書「人文・社会の教養」	児玉克順【著】/fancomi【絵】
雨の日の心理学—こころのケアがはじまったら	東畑開人
断片的なものの社会学	岸政彦
ファスト&スロー—あなたの意思はどのように決まるか？〈上〉〈下〉	カーネマン, ダニエル【著】/村井章子【訳】
こうやって頭のなかを言語化する。	荒木俊哉
アメリカの高校生が学んでいるお金の教科書	スミス, アンドリュー・O.【著】/桜田直美【訳】
きみのお金は誰のため —ボスが教えてくれた「お金の謎」と「社会のしくみ」	田内学
数学オリンピック 2020~2024	数学オリンピック財団
新・身体とシステム やわらかいロボット	新山龍馬
立衛散考	西沢立衛
現代建築史	フランプトン, ケネス【著】/中村敏男【訳】
集落の教え100	原広司
世界で一番おもしろい構造デザイン	日建設計構造設計グループ【著】
ミステリな建築 建築なミステリ	篠田真由美
設計プロセスの現場	中山英之/五十嵐淳
マリンス有機化学〈上〉—学び手の視点から	Mullins, Richard J
マリンス有機化学〈下〉—学び手の視点から	Mullins, Richard J
宇宙開発の不都合な真実	寺園淳也
共立スマートセレクション 発酵—伝統と革新の微生物利用技術	杉山政則
食品シリーズ 発酵・醸造食品の最前線《普及版》	北本勝ひこ
朝倉農学大系 発酵醸造学	大杉立/堤伸浩
食品シリーズ 発酵・醸造食品の最新技術と機能性〈2〉（普及版）	北本勝ひこ
サンダー・キャッツの発酵の旅 —世界中を旅して見つけたレシピ、技術、そして伝統	Katz, Sandor Ellix
Make : Japan Books 発酵の技法—世界の発酵食品と発酵文化の探求	Katz, Sandor Ellix
発酵ハンドブック	栃倉辰六郎 ほか
本当の就職テスト これが本当のSPI3だ！〈2027年度版〉 —主要3方式〈テストセンター・ペーパーテスト・WEB	SPIノートの会
SPI3の教科書これさえあれば。〈2027年度版〉 —0からわかる	就活塾ホワイトアカデミー採用テスト対策室
面接の教科書これさえあれば。〈2027年度版〉 —「合格の法則」がここにある	坂本直文【監修】
一般常識&時事問題の教科書これさえあれば。〈2027年度版〉 —最新最速	柳本新二
起業時代 〈vol. 06〉 特集：起業3年目のリアル	
起業時代 〈vol. 07〉 特集1：“ワクワクできる最強の羅針盤” / 特集2：ナントカシ	
ブレずに「やりたいこと」で食べていく起業	矢島里佳
いずれ起業したいな、と思っているきみに17歳からのスタートアップの授業 —アントレプレナー入門エンジェル投資家からの10の講義	古我知史

新着図書の紹介

書名	著者
いずれ起業したいな、と思っているきみに17歳からのスタートアップの授業—アントレプレナー列伝エンジェル投資家は、起業家のどこを見ているのか？	古我知史
世界でいちばん素敵な中世ヨーロッパの教室	祝田秀全【監修】
世界でいちばん素敵な西洋美術の教室 印象派編	永井龍之介【監修】
世界でいちばん素敵なアメリカの教室 —The World's Most Wonderful Classroom of America	村山秀太郎【監修】
世界でいちばん素敵な宝石の教室	東郷史子【監修】
クロスセクションの本 輪切り図鑑クロスセクション —18の建物や乗物の内部を見る (新装版)	ピースティー, スティーヴン【画】/ プラット, リチャード【文】/ 北森俊行【訳】
イラストでサクッと理解 世界を変えた数学史図鑑	Fukusuke
おうちで楽しむ科学実験図鑑	尾嶋好美
理系アタマがぐんぐん育つ 科学のトビラを開く! 実験・観察大図鑑	ウィンストン, ロバート【著】/西川由紀子【訳】
今日から理系思考! 「お家にある材料」でおもしろ科学の実験図鑑	ウルバン, セルゲイ【著】/黒木章人【訳】
学研の図鑑LIVE 鉱物・岩石・化石	川上紳一/松原聡
ひとりて探せる川原や海辺のきれいな石の図鑑 (改訂版)	柴山元彦
ひとりて探せる川原や海辺のきれいな石の図鑑〈2〉	柴山元彦
ひとりて探せる川原や海辺のきれいな石の図鑑〈3〉海辺篇	柴山元彦
地雷グリコ —GLICO WITH LANDMINES	青崎有吾
人魚が逃げた	青山美智子
杜子春	芥川龍之介
トロッコ・一塊の土 (改版)	芥川龍之介
或阿呆の一生・侏儒の言葉 (改版)	芥川龍之介
武道館	朝井リョウ
生殖記	朝井リョウ
宝島社文庫 卒業のための犯罪プラン	浅瀬明
サンショウウオの四十九日	朝比奈秋
乱歩殺人事件—「悪霊」ふたたび	芦辺拓 江戸川乱歩
パーニング・サンダー	阿津川辰海
黄土館の殺人	阿津川辰海
カフネ	阿部暁子
文春文庫 くちなし	彩瀬まる
日本扇の謎	有栖川有栖
DTOPIA	安堂ホセ
ツミデミック	一穂ミチ
恋とか愛とかやさしさなら	一穂ミチ
光文社文庫 巨鯨の海	伊東潤
イツ・グ・ボム	井上先斗
文春文庫 雲を紡ぐ	伊吹有喜
明智恭介の奔走	今村昌弘
藍を継ぐ海	伊与原新
宝島社文庫 推しの殺人	遠藤かたる

新着図書の紹介

書名	著者
みどりいせき	大田ステファニー歎人
虚史のリズム	奥泉光
s p r i n g	恩田陸
了巷説百物語	京極夏彦
やっぱり好き！京極夏彦サーガ	『このミステリーがすごい！』編集部
蟹工船	小林多喜二
法廷占拠 爆弾2	呉勝浩
Q	呉勝浩
六色の蛹	櫻田智也
名探偵の有害性	桜庭一樹
時々ボソッとロシア語でデレる隣のアーリャさん〈7〉～〈9〉	燦々SUN
あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。	汐見夏衛
伯爵と三つの棺	潮谷駿
検察側の罪人〈上〉〈下〉	雫井脩介
ぼくは化け物 きみは怪物	白井智之
ファラオの密室 —THE PHARAOH'S SEALED ROOM	白川尚史
地面師たち	新庄耕
ゲートはすべてを言った	鈴木結生
穢れた聖地巡礼について	背筋
人間失格	太宰治
ツナグ 想い人の心得	辻村深月
琥珀の夏	辻村深月
レジェンドアニメ！	辻村深月
嘘つきジェンガ	辻村深月
この夏の星を見る	辻村深月
Another side of	辻村深月
謎の香りはパン屋から	土屋うさぎ
チーム	堂場瞬一
檀垣澤家の炎上	永嶋恵美
武士道	新渡戸稲造
小説	野崎まど
アルプス席の母	早見和真
総理の夫 — First Gentleman (新版)	原田マハ
十字屋敷のピエロ	東野圭吾
架空犯	東野圭吾
透明な螺旋	東野圭吾
ヒーロー文庫 薬屋のひとりごと	日向夏
少女には向かない完全犯罪	方丈貴恵
ぼくらは回収しない	真門浩平

新着図書の紹介

書名	著者
今夜、喫茶マチカネで	増山実
一次元の挿し木	松下龍之介
パリ山行	松永K三蔵
高校入試	湊かなえ
豆の上で眠る	湊かなえ
山女日記	湊かなえ
物語のおわり	湊かなえ
絶唱	湊かなえ
ユートピア	湊かなえ
ポイズンドーター・ホーリーマザー	湊かなえ
未来	湊かなえ
ブロードキャスト	湊かなえ
落日	湊かなえ
カケラ	湊かなえ
ダイヤモンドの原石たちへ	湊かなえ
残照の頂 続・山女日記	湊かなえ
人間標本	湊かなえ
C線上のアリア	湊かなえ
湊かなえのことば結び	湊かなえ
永劫館超連続殺人事件	南海遊
銀河鉄道の夜	宮沢賢治
婚活マエストロ	宮島未奈
源氏物語	紫式部
禁忌の子	山口未桜
文春文庫 ナイルパーチの女子会	柚木麻子
海も暮れきる	吉村昭
可燃物	米澤穂信
創元推理文庫 夏期限定ートロピカルパフェ事件	米澤穂信
創元推理文庫 秋期限定栗きんとん事件〈上〉〈下〉	米澤穂信
創元推理文庫 巴里マカロンの謎	米澤穂信
創元推理文庫 冬期限定ーボンボンショコラ事件	米澤穂信
薦屋重三郎ー江戸を熱狂させたエンタメ界の風雲児!	板野博行
おくのほそ道	板野博行
信長公記	板野博行
日本書紀ー「書かれた文字」の裏に秘された真実	板野博行
地獄の世界	富増章成
平家物語	板野博行
徒然草	板野博行
万葉集	板野博行

新着図書を紹介

書名	著者
日本史「意外な話」	並木伸一郎
「聖書」の謎	並木伸一郎
喫茶店の水	q p
くもをさがす	西加奈子
宮崎怪談	久田樹生
夜の人々	エドワード・アンダースン
エイレングラフ 弁護士の事件簿	ローレンス・ブロック
身代りの女	シャロン・ボルトン
7月のダークライド	ルー・パーニー
ポタニストの殺人(上)(下)	M・W・クレイヴン
すべての罪は血を流す	S・A・コスビー
ウォッチメーカーの罠	ジェフリー・ディーヴァー
クリスマス・キャロル	ディケンズ
ウナギの罠	ヤーン・エクストレム
死はすぐそばに	アンソニー・ホロヴィッツ
レ・ミゼラブル	ビクトル・ユゴー
ビリー・サマーズ(上)(下)	スティーブン・キング
魂に秩序を	マット・ラフ
ターン・グラス 鏡映しの殺人	ガレス・ルービン
資本論	マルクス/エンゲルス
百年の孤独	ガブリエル・ガルシア・マルケス
極夜の灰	サイモン・モックラー
白薔薇殺人事件	クリステイン・ペリン
止まった時計	ジョエル・タウンズリー・ロジャーズ
ぼくの家族はみんな誰かを殺してる	ベンジャミン・スティーヴンソン
狂った宴	ロス・トーマス
戦争と平和	トルストイ
終の市	ドン・ウィンズロウ
両京十五日 I凶兆 II天命	馬伯庸
喪服の似合う少女	陸秋槎
河出文庫 すべての、白いものたちの	ハンガン【著】/斎藤真理子【訳】
新しい韓国の文学 菜食主義者	ハンガン【著】/きむふな【訳】
西遊記	
スラムダンク完全版(1)~(23)	井上雄彦
ベルサイユのばら(1)~(5)	池田理代子
宇宙兄弟(1)~(44)	小山宙哉

編集後記

◆卒業研究等で時間がない中での記事作成となりましたが、なんとか書き切ることができました。退任前でお忙しいところ、ご寄稿いただいた飯尾先生、内容やレイアウトにてご助言いただいた友安先生、掲載写真や閉架書庫に関する内容でバックアップしていただいた図書係の方に深く感謝申し述べます。

(5 C 川越匠真：閉架書庫紹介担当)

◆クロスワードを作るにあたって、色んな名作を読みました。内容だけぼんやりと知っていたものも、以前読んだことがあるものも。それらには、やはり名作と言われているだけの面白さがあるのだと改めて思い知らされました。普段は現代文学しか読んでないと言う人も、たまには趣向を変えてみるのも良いのではないのでしょうか。

(2 E 久林由奈：名台詞クロスワード担当)

◆最近ブラックジャックにハマってよく行くようになりました。好きな本をとでもしれて面白かったです。

(1 C 鶴久琉結：図書委員のおすすめ担当)

◆この PDF を開いた一ヶ月半の自由な翼を悠々と広げる皆様、如何お過ごしでしょうか。昨今、電子書籍は然り大学の資料や国立国会図書館に保管される貴重なデータなども薄い板一枚の上で広げる事が可能となり、情報は大変容易に手元に届くようなのです。しかし、「何時でも読める」手軽さは「今読まない」為の最適な言い訳でもあるでしょう。中学生の頃に読んだ太宰治の斜陽は、憧れるような生き様であり反面教師のような立ち位置にありました。しかし不幸にも高専という地に自ら足を踏み入れ、欠課次数と肩を組みながら全国を放浪する楽しさを覚えてしまった今、改めて読み返せばきっと妥協に近い同情を覚えることでしょう。また幾つか歳を重ね米と米麴に溺れる頃には、胸ポケットに納まる免罪符と化けるかもしれません。綴られた文字記号はいつまでもインクが形を維持してくれますが、読み取れる内容は一刻々々を持って変わり続けます。酸いも甘いも青い春を送る今現在だからこそ読み取れる言葉が、きっとあるはずです。明日も今日も回り続ける日常の何処かで思い出すような体験を「歴史的である」と決めつけられるのですから、好き勝手に決めた歴史の裏付けにその時だけの言葉を当てはめる必要があると私は考えます。この春は背表紙を見て衝動買いし積読することをステータスと自称し始める前に、まずは文中に現れた単語の意味を文脈から補完せず辞書か記憶から引くことから始めてみて下さい。

(3 A 郭龍佑：編集後記担当)

